

時代を超えて息づくノスタルジー

～大正ロマン漂う銀山温泉と癒しを感じるまちづくり～

山形県尾花沢市



「家並保存条例」により風情の保存に努めている。街並みは、大正時代を思わせる。



足湯「和楽足湯」は、気軽に温泉気分と景観を味わえる場所として好評を得ている。



景観を配慮して、作業員の服装や工場用標識に工夫を凝らした。

事例の概要

昭和61年、銀山温泉家並保存条例を制定し、現存する大正、昭和初期の建築である木造建築様態を極力保存し、温泉街景観の保持に努めてきた。

温泉旅館関係者が主体である「湯のまちづくり委員会」では、ふらりと訪れた人々にも温泉気分と景観

を気軽に楽しんでもらえるよう足湯を設置した。

大正ロマン漂う銀山温泉の景観の保持と自然環境の保全は、全国から多数の来訪者を呼び込み、市民の郷土に対する誇りと愛着の醸成に結びついた。

評価のポイント

尾花沢市は、山形県の東部、宮城県と接し、農業を基幹とする田園都市である。冬期は降雪が多く、日本三雪に数えられるほどの豪雪地帯である。過疎地域の問題は人口減少と雪ととらえ、市民のまちづくり参加により、交流人口の拡大と居住環境の整備を行うことで、自立活性化を図ってきた。

その中心となったのが、大正ロマン漂う銀山温泉である。全国の各温泉場の旅館で近代化が進む中、それに逆行すべく各旅館の女将達がこの風情ある温泉情緒を残そうと温泉街全体を説得し、市としてもこの考えに賛同し温泉街の家並を保存すべく、昭和61年に「銀山温泉家並保存条例」を制定した。また、一級河川「銀山川」や、自然景観を保全する目的による、特定環境保全公共下水道事業、電柱地中化事業、ガードレールなどを景観に合わせて整備する事業なども一体に行ってきた。平成13年度から地元温泉旅館関係者らが主体となり、「湯のまちづくり委員会」を立ち上げ、市が委嘱した景観アドバイザーと共に行政と連携しな

がら良好な温泉地づくりの検討を行い、気軽に温泉気分を味わえるよう足湯「和楽足湯」、ガス灯の設置等の整備が行われ、大正ロマンはさらに魅力あるものとなった。

また、銀山温泉では地元農家による朝市産地直売の開催、尾花沢市が発祥の地である花笠踊りの実演サービスなども催され、銀山温泉にとどまらず地域産業の振興及び尾花沢市全体の広域交流を目指した取組みがなされている。

このように、これまで行ってきた銀山温泉の整備は平成11年に山形新幹線が新庄駅まで延伸された効果もあり、大幅な観光客の増加に結びつき、また多くのメディアにも取り上げられ、全国的にも知られるようになってきている。このような現象は、住民の郷土に対する誇りと愛着の醸成に結びついて、地域をもう一度見直そうとする意識の高まりにも繋がり、地域全体の活力につながっていることが評価された。

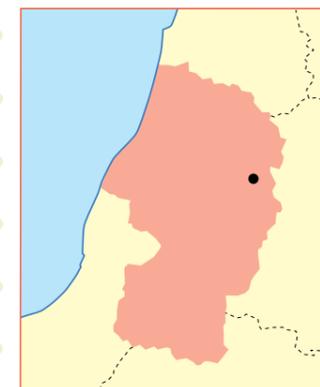


花笠踊り発祥の地尾花沢を知ってもらおうと、地元温泉街の方々による軽快な笠回し。



地元農家による朝市。都市部からの観光客が珍しい山菜や野菜を買い求めている。

山形県 尾花沢市



国勢調査人口

昭和35年	昭和45年	平成2年	平成7年	平成12年
31,538	27,173	23,909	23,127	22,010

増減率

H12/S35	H12/S45	H7/H2	H12/H7	高齢者・若年者比率(H12)
△30.2	△19.0	△3.3	△4.8	高齢者比率 27.9 若年者比率 14.0

交通のご案内

- 自動車** 東北中央自動車道東根ICから国道13号経由25分
- 電車** JR山形新幹線大石田駅からバス10分
- 飛行機** 山形空港から自動車25分

団体連絡先

- 名称** 山形県尾花沢市
- 所在地** 〒999-4292 山形県尾花沢市若葉町1-1-3
- 電話番号** 0237-22-1111 (企画政策課)
- URL** <http://www.city.obanazawa.yamagata.jp>